

幼児・小学生・中学生

子どもの成長段階に合わせた交通安全教育を普及

Hondaは、幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が必要であると考え、幼児・小学生には交通行動の基本である「止まる」「観る（観察する）」を身につけてもらうための教育を普及しています。自転車の事故に遭いやすい中学生には、危険予測能力の向上とともに交通ルールを守ることや思いやる心を持つことの大切さに気づいてもらうことで、自らの行動を変えてもらうための教育を展開しています。



「止まる」「観る」を身につけてもらうための「あやとりい」の普及

交通安全教育プログラム「あやとりい」は、子どもの成長に応じ3つのプログラムがあります（P27参照）。この「あやとりい」による教育の場を普及させるため、Hondaでは地域の指導者に教材と指導ノウハウを提供。全国各地の交通指導員を中心に活用いただいています。香川県高松市の交通安全指導員の方々は幼稚園・保育所での交通安全教室で「あやとりい ひよこ編」を使った指導を行っています。「子どものイラストを動かしながら歩くべき場所を示せるので、幼児にわかりやすく説明できる」と好評です。また、茨城県つくば市の交通安全教育指導員の方々は「あやとりい」を使った交通安全教室を小学校で実施しています。こうした地域の指導者を通じて、今年は全国各地で約30万人（10月末現在）の子どもたちが「あやとりい」による交通安全教育に参加しました。

このほか、「Honda交通安全かるた」（P27参照）も交通安全教育の現場で活用いただいています。神奈川県逗子警察署



香川県高松市の交通安全指導員による高松市立宮脇保育所での「あやとりい ひよこ編」



茨城県つくば市の交通安全教育指導員によるつくば市立竹園東小学校での「あやとりい」

では今年1月から2月にかけて逗子市内の5つの小学校で「交通安全かるた大会」を開催。担当者は「守ってほしいルールが読み札を通して、リズムカルに耳に入り、子どもたちにも好評でした」と話しています。



神奈川県逗子警察署による小学校での「交通安全かるた大会」

中学生への自転車教育に様々な形で協力

中学生になると通学に自転車を利用する生徒も多くなります。静岡県藤枝市立瀬戸谷中学校では、同校の教諭と静岡県交通安全協会藤枝地区支部交通安全指導員の方々による交通安全の授業を実施しました。教材として使用したのはHondaが4月に発売した「危険予測トレーニングDVD」（P27参照）です。生徒たちは動画による自転車乗用中の交通場面を見て、どのような危険があるかを班に分かれて話し合い、その内容を発表。その後、交通安全指導員が解説とアドバイスを行いました。同校の小林彰校長は「危険を予測し、回避する力を育成する上で、効果的な指導ができました」と授業の成果を語っています。

また、浜松普及ブロックは8月に開催された富山県サイクル安全リーダー*研修会に協力。この研修会は生徒自身の安全意識の高揚と自主活動の活性化を図ることが目的です。県内83の中学校のサイクル安全リーダー161名に、座学と実技を通じて、交通ルールやマナーを守ることの重要性、人への思いやりの大切さに気づいてもらうための自転車教育を行いました。



藤枝市立瀬戸谷中学校の教諭と静岡県交通安全協会藤枝地区支部交通安全指導員による交通安全の授業



浜松普及ブロックによる富山県サイクル安全リーダー研修会での自転車教育

* 富山県警察本部が県内中学校の生徒の代表者をサイクル安全リーダーとして委嘱。サイクル安全リーダーは各学校の指導のもと、自転車通学する生徒に対して、交通ルールの遵守とマナーの向上や自転車の盗難防止を呼びかけている。

子どもと親が楽しく交通安全を学ぶ親子交通安全教室

Hondaパートナーシップインストラクター（HPI・P11参照）は、自治体や関係諸団体と協力して、親子が楽しく交通安全を学べる参加体験型の「親子交通安全教室」を開催しています。自分の命を守るために交通安全が大切なことを再確認してもらうことが目的で、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を伝えています。例えば、トラックの死角に入った自転車が左折時に巻き込まれる状況を確認したり、飛び出しなど子どもに多い事故事例を模擬再現したりするなど、親子に気づきを促すプログラムを実施しています。

HPI養成企業の1つ（株）ケーヒン鈴鹿工場が主催する「鈴鹿地区親子交通安全教室」には親子188名が参加。開催に合わせて近隣にある小学校の児童に交通安全啓蒙ポスターを制作してもらい、交通安全教室の当日にポスターの優秀作品を表彰しました。親子交通安全教室は全国各地で開催回数を重ね、地域との連携を深めています。



（株）ケーヒン鈴鹿工場が三重県鈴鹿市で開催した親子交通安全教室



親子交通安全教室の会場内に展示された鈴鹿市立国府小学校の児童による交通安全啓蒙ポスター

道徳心ある交通社会人を育てるための新たな安全教育を全国で展開

Hondaは高校生に対して、交通安全教育を通じ、社会生活におけるルールやマナー、人への思いやりなど道徳心を養いながら豊かな人間性を育み、若く尊い命を守りたいと考えています。そのためには、交通安全について主体的に考え、自ら行動できるようになるための学習機会の提供が必要です。そこで、Hondaは独自に高校生交通安全教育のプログラムを開発し昨年、熊本県において行政機関や教育機関と連携し、高校生交通安全教育を実施しました。今年から、この活動を全国へ拡大させるために各地で展開しています。



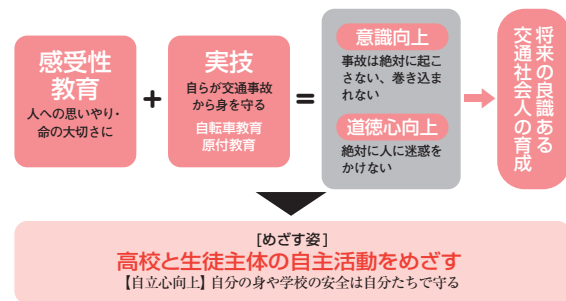
思いやりの心を身につけ、安全意識の向上につなげる

Hondaの高校生交通安全教育のベースには、「人を思いやる心を持つ」という教育的な観点があります。そして、自転車や原付の運転時における交通ルールやマナー、危険行動について、感受性教育や実技を通じ、高校生自らが考えることで行動変容を促すことをねらいとしています。

感受性教育では、交通ルールやマナーの重要性、事故を起こしてしまった場合の影響や責任を学ぶことで、人への思いやりや命の大切さに気づいてもらうための教育を行っています。一方、実技では単に自転車や原付の操作スキルではなく、安全運転スキルを学ぶことに主眼を置き、危険を安全に体験し、危険ポイントを学ぶなど、自ら交通事故から身を守るという考え方を生徒に身につけてもらっています。この感受性教育と実技によって、「事故は絶対に起こさない。巻き込まれない」という意識の向上とともに、「絶対に人に迷惑をかけない」という道徳心の向上をめざしています。

現在、展開している高校生交通安全教育は感受性教育、実技（自転車教育、原付教育）で構成されており、各高校の状況に合わせ、生徒への適切な教育ができるようになっています。

●Hondaがめざす高校生交通安全教育の考え方



●高校生交通安全教育実施状況

府県	実施校数	府県	実施校数
福島県	14	岡山県	8
茨城県	1	鳥取県	1
栃木県	2	島根県	2
群馬県	7	香川県	1
静岡県	5	徳島県	1
石川県	1	高知県	2
三重県	3	佐賀県	4
滋賀県	1	大分県	7
大阪府	7	熊本県	12
兵庫県	22	計	101

平成25年11月末現在

自転車で事故を起こしてしまった場合の責任を考える

感受性教育はHondaの中学生・高校生への自転車指導マニュアル（P27参照）を使い、実際に中学生・高校生が加害者となった自転車事故の事例、または交通事故の被害者・加害者による手記をもとに生徒同士が話し合うことで安全意識の向上を図るものです。

兵庫県立小野工業高等学校では、先生方が自転車事故の事例を使って1～3年のクラスごとに感受性教育を実施しました。自転車乗用中の「携帯電話使用による交通事故」を題材に、生徒一人ひとりが事故の原因、自転車利用者の心理状態、事故が起きた後の影響をワークシートにまとめた上で班に分かれ、グループ討議を行い、発表します。それらをクラス全員で共有し、最後に事故防止に向けた決意をワークシートに記入し終了。指導を担当した先生からは、「交通安全の授業を担当したのは今回が初めてでしたが、自転車指導マニュアルにはしっかりとした指導案も用意されていたのでスムーズに進めることができました」という感想を話しています。



兵庫県立小野工業高等学校での感受性教育



兵庫県伊丹市立伊丹高等学校での自転車教育



岡山県立笠岡工業高等学校での原付教育



熊本県立翔陽高等学校での生徒指導員による原付教育

体験を通して思いやりの大切さを理解する

実技（自転車教育、原付教育）では体験を通して、人への思いやりや事故から身を守ることの大切さを生徒が主体的に考えられるように工夫されています。

例えば、自転車教育の「8の字走行体験」は直径8mの円をつなげた8の字コースを自転車20台で走行します。8の字の交差する場所では、お互いの動きをよく見て譲り合えば、スムーズに走れないことを生徒に気づいてもらうことが目的です。

また、原付教育では二輪車の安全運転に必要な知識とスキルを習得し、危険走行や交通法規違反が事故につながることを生徒に理解してもらうことが目的です。

実技を実施した高校の先生方からは「簡単にできそうに思えて、実際にやってみると難しいので、生徒が興味を持って取り組める内容です。また、生徒の安全意識向上に効果があるだけでなく、教職員も指導に参加したことで、私たちが交通安全教育の重要性を再確認できました」と好評です。

高校と生徒が主体となった自主活動をめざす

Hondaの高校生交通安全教育は、「自らの安全は自らが守る。自らの学校の安全は自分たちで守る」という自立心の向上を図り、高校と生徒が主体となった自主活動に発展させていくことを目標としています。

熊本県立翔陽高等学校は平成24年度に、2年生を対象に原付教育を5回実施しました。今年3月には平成25年度の活

動に向け、原付教育を受けた2年生のうち5名を生徒指導員として養成。そして4月、この生徒指導員5名（3年生）が新規原付通学者（2年生）に対し、座学と実技による指導を行いました。生徒指導員の一人は「自分が通学時に感じた危険を先輩に伝えたいと思い、指導員になりました。自分の体験を交えながら、わかりやすい説明を心がけています」と話しています。同校では、先輩から後輩へ安全運転への思いを継承するためのサイクルが出来上がりがつつあります。

今後も、Hondaはプログラムの内容を充実させ、実施高校に対して継続的な支援を行っていきます。

運転者・
高齢者

教え込むのではなく、気づきを促す 参加体験型の実践教育

ドライバーやライダーなどの運転者には、参加体験型の実践教育により、安全についての理解を深めていただくための場を、Hondaの交通教育センターや二輪・四輪・汎用販売会社が提供しています。高齢者には自身の身体機能の低下を自覚してもらうとともに、意識と行動のずれを少なくするための気づきを促す教育プログラムを展開しています。



企業・団体などのニーズに合わせて 安全運転教育を提供する「交通教育センター」

交通教育センターでは社内外の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育を行っています。今年は約8万2000人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

企業・団体向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを、オーダーメイドで提供。例えば、交通教育センターレインボー埼玉では東京ガス（株）の50歳以上の社員を対象にシニア安全運転研修を実施しています。同社は「ベテラン社員に若い頃との変化を気づいてもらえるので、安全運転につながる」と研修プログラムを評価しています。また、企業・団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しています。交通教育センターレインボー埼玉・和光では「2013トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」を開催し、261名の方々に参加していただきました。「安全に強い職場作りと人材の育成」をテーマに、三菱電機ビルテクノサービス（株）や東日本電信電話（株）などの事故防止活動が紹介されました。

個人のお客様向けには、Honda モーターサイクリスト・スクール（二輪）やHonda ドライビング・スクール（四輪）を開催。さらに今年は、交通教育センターレインボー埼玉および浜名湖で初心者ライダーを対象にした「宮城光スポーツライディ



交通教育センターレインボー埼玉での東京ガス（株）の50歳以上の社員を対象にしたシニア安全運転研修



交通教育センターレインボー埼玉での宮城光スポーツライディング

ング」を実施。埼玉では一般のライダー15名が受講し、参加からは「宮城さんから直に自分の運転に対するアドバイスをもらえ、参考になった」という声が聞かれました。

手渡しで安全を伝える「販売会社」

二輪・四輪・汎用販売会社では、お客様との触れ合いを大切にしながら、手渡しの安全活動を実践。安全運転に関するHondaの社内資格^{*1}を取得したスタッフが中心となって、店頭やイベントなどで安全アドバイスを行っています。

毎年、春と秋の「全国交通安全運動」（主催：内閣府ほか）に合わせて、オールHonda^{*2}で、「セーフティキャンペーン」を開催し、「交通安全啓発ツール」の配布などを行い、広く交通安全を訴求しています。

四輪販売会社であるHonda Cars熊本東では店内でお客様とのお子様を対象に交通安全教室を実施。Honda Cars山陰中央やHonda Cars駿河では、スタッフが近隣の幼稚園で「あやとりい ひよこ編」を使った交通安全教室を行うなど、地域社会と連携した交通安全活動を推進しています。

二輪販売会社ではお客様への安全アドバイスができるライディングアドバイザーを養成。Honda DREAM高槻では、定期的にお客様を対象としたライディングスクールを開催し、ライディングアドバイザーが指導を行っています。

高齢者への交通安全教育

高齢者には自身の身体機能の低下を自覚してもらうとともに、意識と行動のずれを少なくするための教育が必要です。交通教育センターでは高齢ドライバー向けの少人数制教育プログラム「Honda健康ドライブスクール」を実施しています。このスクールは自己観察法^{*3}と呼ばれる手法を取り入れ、高齢者自らが自分の運転の問題点に気づき、行動変容を促すことを目的としています。栃木県では、このプログラムを使用して2009年度から「しあわせ高齢ドライブスクール」をアクティブセーフティトレーニングパークもてぎで開催しています。2013年10月末までに750人以上の高齢者が受講しました。主催する栃木県は「県内の高齢ドライバーの交通事故件数は減少しているので、今後もスクールを継続していきたい」と話しています。

高齢の歩行者、自転車利用者に向けては、Hondaの交通安全教育プログラム「あやとりい 長寿編」「交通安全ビデオ講座」「シルバー楽集大学」（P27参照）を普及しています。例えば、三重県の四日市市交通安全協議会に所属する交通安全教育指導員8名で構成される「とみまつ隊」は市内の公民館や集会所で「あやとりい 長寿編」を活用し、高齢者への歩行者教育を実施しています。



Honda Cars 山陰中央による幼稚園での「あやとりい ひよこ編」を使った交通安全教室



Honda Cars 熊本東による「危険予測トレーニング」（P27参照）を使ったお客様とお子様への交通安全教室

^{*1} Hondaの社内資格には、お客様に店頭などでアドバイスができる「セーフティコーディネーター」、お客様の安全で楽しいモーターサイクルライフをサポートする「ライディングアドバイザー」、電動カート「モンバル」の安全な乗り方や正しい取り扱いなどについてアドバイスできる「モンバル安全運転指導員」などがある。

^{*2} Hondaの全事業所・各部門、交通教育センター、四輪販売会社、二輪販売会社（Honda DREAM）、汎用販売会社、ホンダ輸送グループ。

^{*3} 東北工業大学の太田博雄教授らが（公財）国際交通安全学会などで研究成果を報告しているもので、自分の運転を録画して観察し、「我が身振り返り、我が振り直す」手法。



アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでのしあわせ高齢ドライブスクール



四日市市「とみまつ隊」による「あやとりい 長寿編」

関係諸団体
との連携

交通事故の低減に向けた 関係諸団体等との連携による取り組み

Hondaでは、交通安全活動をされている関係諸団体や業界の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。



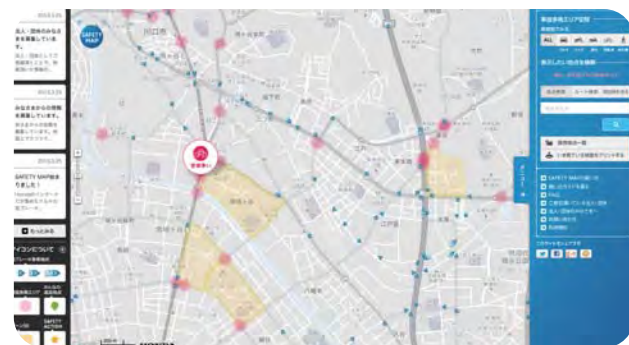
埼玉県警察本部との共同研究の結果を報告

Hondaは埼玉県警察本部、(株)レインボーモータースクールと「交通事故削減のための協力に関する覚書」を交わし、昨年、高齢歩行者横断事故削減プロジェクトを立ち上げ、早稲田大学の協力のもと共同研究に取り組みました。夜間における高齢歩行者の死者数が顕著であることから、こうした死亡事故の原因を自動車側と歩行者側の両面から究明することを目的としています。今年、その研究結果を報告しました。様々な実験や事故分析などから、夜間の道路横断中の事故は歩行者の無理な横断によるものもありますが、大きな要因としてはドライバーから歩行者が見えていないことがわかりました。そうした要因をドライバーと歩行者それぞれに理解してもらうため、プロジェクトでは対策案の1つとして啓発のための教材(DVD)「危険を識(し)る～夜間高齢歩行者事故を防ぐために」を制作しました。このDVDは埼玉県内の警察署や県トラック協会などで活用されています。

さらに、3月に一般公開した「SAFETY MAP^{*1}」にはインターネット^{*2}から収集した急ブレーキ多発地点データと、埼玉県警察本部から提供いただいた交通事故情報やゾーン30情報、地域住民の方々などから投稿される危険スポット情報を掲載しました。9月末には警察庁、ITARDA^{*3}などから提供いただいた情報も掲載し、地域の安全活動に活用できるよう、全国に拡大し展開しました。



高齢歩行者横断事故削減プロジェクトの実験(協力:石田敏郎・早稲田大学教授)



パソコン用「SAFETY MAP」(イメージ)以下のホームページでご覧いただけます。 <http://safetymap.jp/>

^{*1} 地域住民の皆様をはじめ、小・中学校や企業などの団体が地域の安全活動に活用できることを目的としたソーシャルマップ。急ブレーキ多発地点や事故多発エリア、ゾーン30などの情報に加え、「見通しが悪い」「飛び出しが多い」など一般投稿された危険スポット情報を地図上に掲載している。

^{*2} Hondaが開発した双方向通信型カーナビ。

^{*3} (公財)交通事故総合分析センター(イタルダ)

教習指導員のレベルアップと交流の場を提供

全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場を提供することを目的として、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」は今年13回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国74校134名の教習指導員の皆様が2日間にわたり競技に取り組みました。また、今回より全国14校15名の教習指導員の皆様に審判員としてご協力いただき、審判に携わった教習指導員からは「非常に勉強になった。来年もぜひ審判員として参加したい」との声をいただきました。



第13回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技

二輪車の交通事故防止のために

二輪車では、(一財)全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が主催する「二輪車安全運転全国大会」での審判業務のほか、(一社)日本二輪車普及安全協会が展開する参加体験型の安全運転講習会「グッドライダーミーティング」の指導に協力。埼玉県のグッドライダーミーティングではHonda自転車シミュレーターを使って、ライダーに自転車利用者の立場を理解してもらうための指導を行いました。

また、1969年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」でも審判業務などに協力しています。



第46回二輪車安全運転全国大会の審判業務などに協力



第44回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などに協力



グッドライダーミーティングの指導に協力

自動車教習所との連携による取り組み

Hondaは地域において交通安全活動に積極的に取り組んでいる16都道府県41校の自動車教習所と連携し、交通安全の輪を全国に広げています。また、教習所にも多くご活用いただいている自転車シミュレーターについて、小川和久・東北工業大学教授、青森モータースクール、弘前モータースクールと連携し、地元高校生を対象に自分の自転車の走り方について自己理解を深める手法を取り入れた新しい教育プログラムを実施しました。



Honda自転車シミュレーターを活用した新しい教育プログラムを実施